

学習院大学史料館 ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.40

発行日 ● 平成31年(2019)3月20日

もくじ

ごあいさつ.....	1
「華ひらく皇室文化展」に寄せて —ボンボニエールの思い出—	2~3
「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」展 学習院大学史料館会場の見どころ	4~5
もう一つの「華ひらく皇室文化展」 泉屋博古館分館会場の見どころ	6~7
おしらせ.....	8



「華ひらく皇室文化展」2館共通ポスター

ごあいさつ

明治150年を迎えた昨年春より「明治150年記念 華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」展は名古屋・秋田・京都を巡回し、いよいよ平成最後のこの春、東京での開催となりました。東京では泉屋博古館分館(3月16日~5月10日)と当館(3月20日~5月18日)の2会場での開催となります。

この展覧会は当館客員研究員・学芸員による明治皇室の美術工芸品調査研究が基となり、大規模な展覧会として披露できることになりました。まさしく当館の調査研究が“華ひらいた”わけです。

4月27日(土)には、同展覧会実行委員会名誉委員長である彬子女王殿下をお迎えして、史料館講座・シンポジウムも開催されます。展示・講座ともにお運びいただき、当館の調査研究の成果を是非ともご覧いただけると幸いに思います。

ミュージアム・レターも今号で40号となりました。当館客員研究員として平成4年(1992)より25年余の長きにわたり調査研究を続けられていらっしゃいました皇太子徳仁親王殿下から、幸いにもご寄稿いただきました。

皇太子殿下はじめ、本展覧会に御協力いただきました所蔵者・所蔵機関・関係者の皆様方に御礼申し上げます。

(平成30年度 史料館長 坂本孝治郎)

「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」展

明治維新は、政治体制の転換にとどまらず、文化・社会の面でも大きな変革をもたらしました。皇室も例外ではなく、その生活は大きな変革を余儀なくされました。諸外国との外交のために、洋装を取り入れ、洋食にて外国使臣をもてなします。その舞台は、延慶館、鹿鳴館、そして明治宮殿と移り変わります。

もてなしの場の調度品は、当初は西洋の製品を使用していましたが、明治10年(1877)の第1回内国勸業博覧会を契機に国産化へと舵を切っていきます。

明治19年(1886)には洋装が婦人の正式な服制になりました。しかし、そのドレスには日本刺繍が施されているものが多く見られます。これは、洋装は古代の衣・裳と同形式であり導入することは理にかなっているが、その材料や技術には必ず国産品を用いるように、との皇后の思いによるものです。

皇室の慶事の際に配られるボンボニエールにも日本の伝統的な意匠が多く取り入れられ、明治維新により職を失った刀剣金工師達はその製作を担いました。皇室よりの下賜品にも漆芸品など日本の伝統工芸品が多く使われています。

一方、宮中御内廷での生活では伝統的な儀式や生活様式が受け継がれており、「着袴の儀」や「御爪箱」などは現在に至るまで、継承されています。皇室が西洋文化を受容する中でも日本の伝統文化の保護・育成を重要視していたことがわかります。

明治150年、明治皇室が守り伝えようとした日本の技と美をご覧いただきたいと思います。

(学習院大学史料館学芸員 長佐古美奈子)



「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」展 学習院大学史料館会場の見どころ

国賓をおもてなしする宮中晩餐会、その映像をご覧になったことがある方も多いかと思います。実はこの宮中晩餐会は、明治のごく初期にイギリスから導入された様式を現在までほぼ同じ形で続けている、世界的にも稀有な正餐スタイルなのです。日本の皇室は明治期に受容した西洋文化に日本の伝統文化を取り入れた、独自の近代皇室様式をそのままタイムカプセルのように現在まで守り続けているのです。その様式がどのように出来てきたのか、そこには皇室のどのような思いがあったのかを作品を通じて見ていきたいと思ひます。

明治8年(1875)に宮内省からイギリス・ミントン社へ発注された洋食器には、「御旗御紋」が描かれています(図1)。この時同時に発注された「御旗御紋」付ガラス器は現在でも宮中晩餐会に使用されていますが、このミントン社の製品を模倣して、国産でも「御旗御紋」付のカップ&ソーサーが作られ(図2)、明治の皇室で使用されていました。

この頃、延遼館で使用されていた国産洋食器は歪みもあり、西洋と同じような製品を作ろうとした職人達の苦心が偲べれます(図3・5)。



図1 「金彩御旗御紋食皿」ミントン社製
明治8年(1875)〔個人蔵〕



図2 「色絵金彩御旗御紋瑠璃文コーヒーマグ・皿」精磁会社製
明治20年(1887)頃〔個人蔵〕



図3 「色絵金彩人物花鳥文食皿」南里嘉壽製
明治5年(1872)～13年 延遼館備品〔個人蔵〕

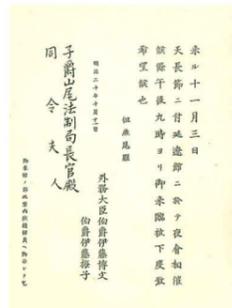


図4 「延遼館天長節夜会招待状」
明治20年(1887)11月3日開催〔当館蔵〕



図5 「色絵金彩花鳥文食皿」幹山伝七製
明治6年(1873)～22年 延遼館備品〔個人蔵〕

延遼館

延遼館は海外からの賓客を接待するために明治2年(1869)7月に現在の浜離宮内に竣工しました。外務省管理の施設として国賓の接待だけでなく、外交会談や条約締結など様々な場面に使用されました。同17年に宮内省へ移管、同23年頃にその役割を終え、取り壊されました。



鹿鳴館

明治16年(1883)、外務卿井上馨によって発案された外賓接待施設として建てられたのが、鹿鳴館です。設計はジョサイア・コンドル。欧化政策の舞台として夜会や舞踏会が繰り広げられましたが、同20年に井上が辞任するとその役割を終え、建物は華族会館に払い下げられました。



右の昭憲皇太后の写真は、明治22年(1889)6月15日に丸木利陽により撮影されたものです。前日に鈴木真一により撮影された立像写真が「御真影」として数多く下賜されたのに対して、座像写真は撮影された記録はあるものの、今まで殆どその存在が確認されていなかった、極めて貴重な写真です。

この写真の皇后はしっかりと前を見据え、力強さを感じられます。またドレスの文様やトレーンの重量感などが鮮明に映し出されているところも見どころです。

(学習院大学史料館学芸員 長佐古美奈子)



昭憲皇太后 明治22年(1889)6月15日 丸木利陽撮影
〔学習院大学文学部史学科蔵〕



明治20年代より、外賓のおもてなしの後などに配られるようになったボンボニエール。元々はフランス・イタリアの小型菓子器でしたが、日本の伝統技術を駆使した日本皇室独自の文化として発展しました。現在でも皇室のご慶事の際には、製作下賜されています(下図5点はすべて当館蔵)。



柳宮形



檜扇形藤桜文



方形色絵菖文



重ね箱形



和船形

菊花紋吉野山蒔絵料紙硯箱

皇室からのお気持ちを伝える下賜品には、日本の伝統工芸品が多く用いられていました。その1つ、大正天皇より伯爵寺内正毅に贈られた「菊花紋吉野山蒔絵料紙硯箱」(当館蔵)をご紹介します。

これは金粉を密に蒔き付けて飾った料紙箱と硯箱のセットです。箱の外側に吉野山、内側に龍田川と、春秋を代表する歌枕の情景を描いています。文様は、金の高蒔絵に銀蒔を交えて表現されており、樹の幹などは、金の薄板を小さな方形に切った切金とよばれる技法で飾られています。高蒔絵で描かれた文様の輪郭線はきわめてシャープで、遠景にみえる桜樹の蒔絵と好対照をなしています。きわめて巧緻な蒔絵表現で、まさに超絶技巧と言えるでしょう。

宮内庁宮内公文書館所蔵史料には「大正五年七月一四日 御紋付料紙文庫硯箱 但桜二楓模様付 一五〇〇円 伯爵寺内正毅へ下賜」とあり、前年8月に三上治三郎へ発注された品であることがわかります。なお、同じ日に、公爵山形有朋、公爵大山巖へも御紋付料紙硯箱が下賜されています。

三上は京都の漆器商で、多くの博覧会などで受賞歴があります。この作品には制作者銘がありませんが、京都の漆芸家戸島光季の作である可能性があります。泉屋博古館分館では戸島光季の「枝垂桜蒔絵手箱」が出品されますので、是非両会場で見比べていただきたいと思います。

(学習院大学史料館客員研究員 小松大秀)





おしらせ

第88回学習院大学史料館講座

「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」展 関連シンポジウム

日時：2019年4月27日(土) 13時30分～16時30分(予定)

会場：学習院創立百周年記念会館 正堂

内容：第1部 「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」を各分野より語る

第2部 討論「明治の美術工芸と皇室の果たした役割」

講師：彬子女王殿下・小松大秀氏・長崎巖氏・野地耕一郎氏・森下愛子氏

*入場無料・事前申込不要・当日先着700名



企画：華ひらく皇室文化展実行委員会
監修：小松大秀 発行：青幻舎
 判型：B5変型 総頁：224頁
 製本：並製 定価：2,315円+税
 ISBN978-4-86152-644-2 C0070



明治150年記念

華ひらく皇室文化 —明治宮廷を彩る技と美— 公式図録

美と技の粋を極め文明開化を牽引した明治宮廷ゆかりの品々。巡回5会場の作品をほぼ収録。

明治天皇が愛した美術品や、昭憲皇太后をはじめとする女性皇族の華やかなドレス、明治宮殿を彩った調度品、超絶技巧作品、皇室の引き出物として明治以降定着したボンポニエール(菓子入れ)など、伝統的文化を庇護しつつ日本の西洋化を牽引した明治期の皇室ゆかりの品々を重要文化財も含め多数掲載。

彬子女王殿下の論文も収録。



学習院大学史料館からのお知らせ

明治150年記念

「華ひらく皇室文化

—明治宮廷を彩る技と美—」展

【主催】学習院大学史料館

華ひらく皇室文化展実行委員会

【共催】公益財団法人 泉屋博古館分館

一般社団法人 霞会館

【会期】平成31年(2019)3月20日(水)～5月18日(土)

【会場】学習院大学史料館展示室(北2号館1階)

【開館時間】10:00～17:00(入館16:50まで)

【休館日】日曜・祝日・5/1(水)

*4/14(日)・4/30(火)・5/2(木)は開館

入館
無料

ミュージアム・レター第40号

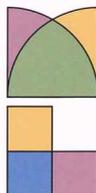
平成31年(2019)3月20日発行

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

電話 03(5992)1173

FAX 03(5992)9219

Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館



●ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>